

(表紙)

金融経済教育研究校 研究報告書

研究校名：茨城町立長岡小学校

研究指定期間：令和6年4月から令和8年3月

I. 研究概要

- 【研究主題】 令和6年度：主体的に考え、学びを深めていく児童の育成
～人やものを大切にし、豊かな生活を目指す活動を通して～
令和7年度：探究的に考え、学びを深めていく児童の育成
～人やもの、お金を大切にし、日常生活に生かす学習活動を通して～

【研究目標】

- ・経済的に自立し、より良い生活を送るために必要なお金に関する知識や判断力（金融リテラシー）を身に付ける。
- ・お金や金融の様々な働きを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会の在り方について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に判断し行動できる態度を養う。

【研究計画】

学年	教科	内容
1	生活科	・校庭で秋の自然の特徴を探し、春や夏との自然の様子の違いに気付く。 ・公園や校庭で秋の自然物で遊んだり、遊びに使う物を選んだりする。 ・秋の自然物を使って、おもちゃを作る。 ・お店屋さんごっこの計画を立てる。 ・作ったおもちゃで幼稚園児と遊ぶ。
4	総合的な学習の時間	・涸沼について知る。 ・涸沼の良さと今後の課題をまとめ、自分の課題を設定する。 ・涸沼の環境を守るために情報を集め、整理・分析する。 ・涸沼の環境保全のために自分たちができることを考え活動する。 ・集めた情報や活動したことをまとめる。 ・自分たちがまとめたことを発信する。

2. 実施スケジュール

年度	月	取組内容
令和6年度	4月	研修計画立案・児童の実態調査
	5月	全体計画・年間指導計画の作成
		外部講師による職員研修（金融経済教育について）
	12月	校内研修（3学級による授業公開）
	2月	児童の実態調査
	3月	2年全クラス対象 講師派遣授業（お金の使い方や貯め方の学習） 今年度の研究の振り返り・次年度の研究テーマの決定
令和7年度	4月	研修計画立案・児童の実態調査
	5月	全体計画・年間指導計画の見直し
	7月	1・2・4・5・6年全クラス対象 講師派遣授業（お金の使い方や貯め方の学習）
	8月	金融経済教育中間発表
	11月	金融経済教育公開授業（1年生活科、4年総合的な学習の時間）・協議会
	2月	児童の実態調査

3.研究授業学習指導案

①生活科授業対象：小学1年

教科・科目：生活科

教科書：どきどき わくわく 新編 あたらしいせいかつ上

使用教材：なし

【単元名】たのしい あき いっぱい

【単元の目標】

- 秋の自然と関わる活動を通して、自然の様子や季節の変化、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることの面白さ、自然の不思議さに気付くことができる。
(知識及び技能)
- 秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けたり、身近な自然を使って、遊びや遊びに使う物を工夫して作ったりすることができる。
(思考力・判断力・表現力等)
- 秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れ、みんなと楽しみながら遊びを創り出し、自分の生活を楽しくしようとする。
(学びに向かう力、人間性等)

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
秋の自然と関わる活動を通して、自然の様子や季節の変化、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることの面白さ、自然の不思議さに気付いている。	秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けたり、身近な自然を使って、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりしている。	秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れ、みんなと楽しみながら遊びを創り出し、自分の生活を楽しくしようとしている。

【単元の指導計画】

次	時	学習内容	使用教材	金融リテラシー・マップ
1	1～3	・学習内容を知り、見通しをもつ。 ・校庭で秋の自然の特徴を探し、春や夏との自然の样子的の違いに気付く。	・教科書 ・ワークシート	
	4～6	・公園や校庭で秋の自然物で遊んだり、遊びに使う物を選んだりする。	・教科書 ・ワークシート	分類2 ○友だちと協力して活動しようとする。
	7～13	・秋の自然物を使って、おもちゃを作る。	・教科書 ・ワークシート	
	14 15 (本時) 16	・おみせやさんごっこの計画を立てる。 ・2組の友達が作ったおもちゃで遊ぶ。 ・自分の作ったおもちゃで2組の友達に遊んでもらう。	・教科書 ・ワークシート	分類1 ○欲しいものをすべて手に入れることはできないことを知る。 ○欲しいものが手に入らない場合にがまんできるように、予算の範囲内でものを買うことができる。 分類2 ○友だちと協力して活動しようとする。
2	17～19	・作ったおもちゃで幼稚園児と遊ぶ。	・教科書 ・ワークシート	分類1 ○欲しいものをすべて手に入れることはできないことを知る。 ○欲しいものが手に入らない場合にがまんできるように、予算の範囲内でものを買うことができる。 分類2 ○友だちと協力して活動しようとする。
3	20	・これまでの学習内容を振り返る。	・教科書 ・ワークシート	

【指導と評価計画】

次	時	学習内容	評価規準
1	1～3	・学習内容を知り、見通しをもつ。 ・校庭で秋の自然の特徴を探し、春や夏との自然の様子の違いに気付く。	・色や形、におい、手触りなど、秋の校庭と夏の校庭との自然の様子の違いに気付いている。（知識・技能／発言・観察）
	4～6	・公園や校庭で秋の自然物で遊んだり、遊びに使う物を選んだりする。	・秋の自然のよさや特徴を生かしながら遊んだり、遊びに使う物を選んだりしている。（思考・判断・表現／発言・観察）
	7～13	・秋の自然物を使って、おもちゃを作る。	・さまざまな自然物を比べたり試したりしながら、材料を選び、おもちゃを作っている。（思考・判断・表現／ワークシート・発言） ・秋の自然物を使って楽しく遊びたいという思いをもち、粘り強くおもちゃを作ろうとしている。（主体的／発言・観察）
	14 15（本時） 16	・おみせやさんごっこ計画を立てる。 ・2組の友達が作ったおもちゃで遊ぶ。 ・自分の作ったおもちゃで2組の友達に遊んでもらう。	・みんなで作った遊びをする際に、遊びのルールを守っている。（知識・技能／発言・観察） ・自分で遊びを作り出したり、友達が作り出したおもちゃで遊んだりする面白さを実感し、これからも遊びを作り出そうとしている。（主体的／発言・観察）
2	17～19	・作ったおもちゃで幼稚園児と遊ぶ。	・自分が作り出したおもちゃで、園児と楽しく遊んでいることに気付いている。（知識・技能／発言・観察） ・遊びを作り出す面白さを実感し、これからも遊びを作り出そうとしている。（主体的／発言・観察）
3	20	・これまでの学習内容を振り返る。	・秋の自然物のよさや特徴を思い出し、自分の力で遊びを作り出す楽しさについて具体的に振り返っている。（主体的／ワークシート・発言）

【授業の様子】

おもちゃ遊びの様子	おもちゃ遊びの様子	おもちゃ遊びの様子
		

②総合的な学習の時間授業

対象：小学4年

教科・科目：総合的な学習の時間

教科書：なし

使用教材：ふるさと茨城町 学ぼう！わたしたちの郷土

【単元名】ぼくら環境守りたい！

【単元の目標】

- 課題解決に必要な知識及び技能を身に付け、涸沼に生息する生き物と周りの環境は関連していることを理解し、環境保全の活動をしている人の存在や思いに気付くことができる。（知識及び技能）
- 涸沼の環境保全について考える過程で課題を解決する方法を選び、問題解決に向けて必要な情報を整理・分析し、自分の考えが伝わるように理由や根拠を明確にしてまとめ、表現することができる。（思考力、判断力、表現力等）
- 自分と異なる意見や考えを生かしながら協働的に取り組むとともに、涸沼の良さや自分と涸沼、地域の人々等とのつながりに気付き、大切にしようとする。（学びに向かう力、人間性等）

【単元の評価規準】

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
課題解決に必要な知識及び技能を身に付け、涸沼に生息する生き物と周りの環境は関連していることを理解し、環境保全の活動をしている人の存在や思いに気付いている。	涸沼の環境保全について考える過程で課題を解決する方法を選び、問題解決に向けて必要な情報を整理・分析し、自分の考えが伝わるように理由や根拠を明確にしてまとめ、表現している。	自分と異なる意見や考えを生かしながら協働的に取り組むとともに、涸沼の良さや自分と涸沼、地域の人々等とのつながりに気付いている。

【単元の指導計画】

次	時	学習内容	使用教材	金融リテラシー・マップ
1	1～28	・涸沼を知る。	・ふるさと茨城町 学ぼう！わたしたちの郷土	
2	29 30	・涸沼の良さと今後の課題をまとめ、自分の課題を設定する。	・ふるさと茨城町 学ぼう！わたしたちの郷土	
	31～38	・涸沼の環境を守るために情報を集め、整理・分析する。 ・涸沼の環境保全のために自分たちができることを考え活動する。	・ふるさと茨城町 学ぼう！わたしたちの郷土	分類1 ○ものやお金には限りがあることやお金の大切さを理解する。 分類2 ○働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。
	39～43 40(本時)	・集めた情報や活動したことをまとめる。	・ふるさと茨城町 学ぼう！わたしたちの郷土	分類2 ○働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く。 ○生活を支えている人々に尊敬と感謝の気持ちをもつ。
3	44～52	・自分たちがまとめたことを発信する。	・ふるさと茨城町 学ぼう！わたしたちの郷土	分類2 ○生活を支えている人々に尊敬と感謝の気持ちをもつ。

【指導と評価計画】

次	時	学習内容	評価規準
1	1～28	・涸沼を知る。	・涸沼に生息する生物は、その周辺の環境と関わって生きていることに気付いている。(知識・理解/発言・ワークシート・タブレット) ・涸沼に生息する生物やラムサール条約に関心を持ち、探究活動に進んで取り組もうとしている。(主体的/ワークシート・タブレット)
2	29 30	・涸沼の良さと今後の課題をまとめ、自分の課題を設定する。	・涸沼の環境保全に関心を持ち、進んで探究活動に取り組もうとする。(主体的/発言・ワークシート・タブレット)
	31～38	・涸沼の環境を守るために情報を集め、整理・分析する。 ・涸沼の環境保全のために自分たちができることを考え活動する。	・涸沼の環境保全のために活動している人の思いや自分たちの生活との関わりに気付いている。(知識・理解/発言・ワークシート・タブレット) ・課題解決に必要な情報を、手段を選択して多様に収集している。(思判表/ワークシート・タブレット・発表)
	39～43 40(本時)	・集めた情報や活動したことをまとめる。	・環境保全のために収集した情報を整理・分析・選択し、自分の考えが伝わるようにまとめている。(思判表/ワークシート・タブレット) ・自分と涸沼や地域の人等との関わりに気付き自分にできることを見付け行動しようとしている。(主体的/発言・ワークシート・タブレット)
3	44～52	・自分たちがまとめたことを発信する。	・伝える相手や目的に応じて分かりやすく表現している。(思判表/発表・ワークシート・タブレット) ・自分も地域の一員であることを自覚し、地域のためにできることを考えて積極的に関わろうとしている。(主体的/発表・ワークシート・タブレット)

【授業の様子】

涸沼水鳥湿地センター見学の様子	環境学習の様子	クリーン作戦の様子
		

4.公開授業・金融経済教育研究協議会

【日時】令和7年11月26日（水）5時間目（13：40～14：25）

【対象学年および参加者】

公開授業	対象者	46名	1年 生活科
		20名	4年 総合的な学習の時間
	参加者	30名	他校教員、教育委員会指導主事、金融広報委員会担当者
金融経済教育研究協議会	参加者	30名	他校教員、教育委員会指導主事、金融広報委員会担当者

【当日スケジュール】

受付	13：00～13：30	控室（音楽室）
公開授業	13：40～14：25	1年1組、4年1組
休憩	14：25～14：45	控室（音楽室）
金融経済教育研究協議会	14：45～15：45	①教育長あいさつ 茨城町教育委員会教育長 ②共催者あいさつ 茨城県金融広報委員会副会長 ③研究発表・研究協議 ④指導講評 茨城町教育委員会指導主事 ⑤謝辞 茨城町立長岡小学校長

【公開授業・協議会の様子】

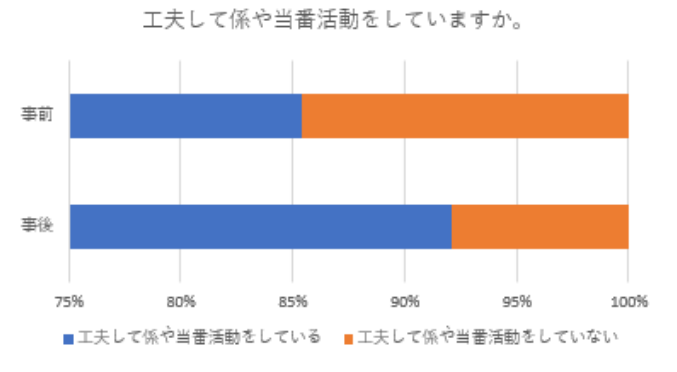
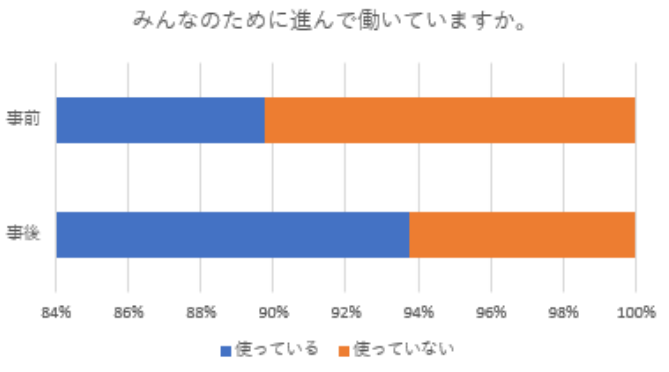
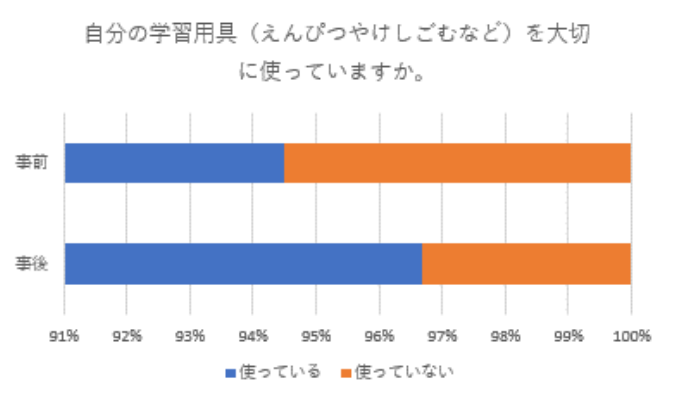
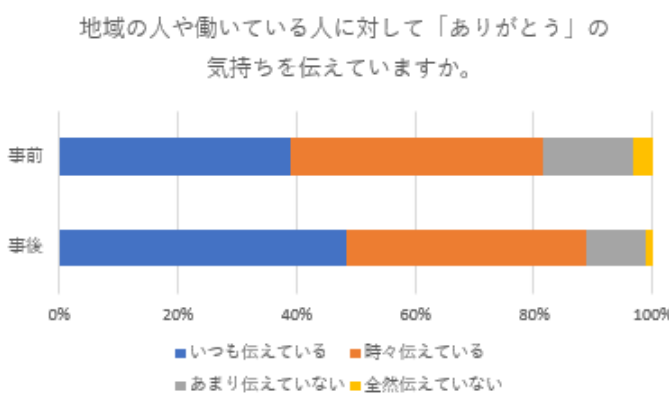
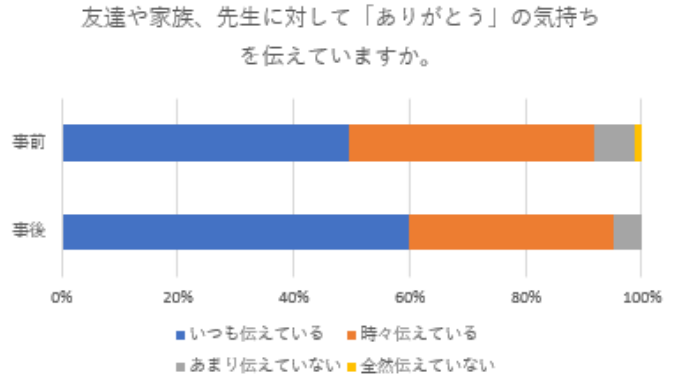
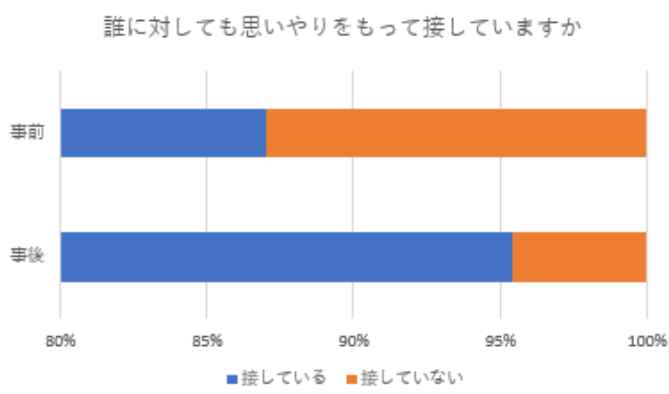
生活科授業	総合的な学習の時間授業	金融経済教育研究協議会
		

5.事前事後アンケート

対象：全学年調査方法：質問紙調査（ウェブフォーム）個人タブレット端末より質問紙へ回答
実施日：令和6年5月、令和8年1月

アンケート結果：いずれの項目においても、授業前より授業後の方が数値が上がっていた。

質問項目	授業前	授業後（肯定的評価）
1 思いやりをもって接しているか。	① 接している・接してない	① 接している 95%
2 感謝の気持ちを伝えているか。	② いつも伝えている・時々伝えている・あまり伝えてない・全然伝えていない	② いつも伝えている・時々伝えている 91%
3 学習用具を大切に使用しているか。	③ 使っている・使っていない	③ 使っている 97%
4 進んで働いているか。	④ 働いている・働いていない	④ 働いている 94%
5 工夫して活動しているか。	⑤ 活動している・していない	⑤ 活動している 92%



6.児童の感想

①生活科授業

- ・全部の遊びをやりたいけれど、お金が足りなかった所以我慢した。
- ・お金を使いすぎてしまって、早く終わってしまったので、次からはよく考えたい。
- ・お金をぴったりに使い切れてうれしかった。
- ・お金を一気に使ってしまったから反省したい。
- ・お金が残りすぎたので、今度からはうまく使い切りたい。
- ・お金の使いすぎは、よくないとわかった。
- ・10このおはじきで、何で遊ぶかをよく考えることができた。

②総合的な学習の時間授業

- ・石けんで実験したことをまとめることができた。他のグループの発表を聞いて、気がついたことを教えることができたし、自分たちのグループもアドバイスや感想を言ってもらえてよかった。
- ・税金をへらすには、誰かの力(町やボランティアなどのこと)も必要だから、まずは自分たちができることをまとめていくようにがんばった。
- ・町の油を集めている活動についてインタビューしたことをまとめた。まとめがよく分かったと感想をもらえてよかった。
- ・なぜ水がよごれるかが分かった。水をきれいにするために自分たちができることがたくさんあったので、実験したことをまとめていきたい。

7.教員の振り返り、感想

① 生活科授業

本授業を構想するにあたり、「児童の実生活に直結するような内容」であることを目指した。レディネスを基に児童の実態を分析し、「足りない経験を補うための授業」づくりを心がけた。本校の目指す「普段通りの学習に金融経済教育を取り入れる」ような実践の在り方をイメージしたことで、指導案を無理なく作成することができた。

今回は1年生の生活科「あきランド」にからめて児童にお金のやり取りを体験させたが、大きな数を学習していない1年生にどうやってお金のやり取りを具現化させるか、また生活科の目指す目標と金融経済教育の目標とをどのようにからめるか、などについて構想に時間を割いた。結果として、お金の代わりにおはじきを用いたり、お店屋さんごっこの形態を取ることで生活科と金融経済教育とのバランスを取ったりした。

当日児童は、「あきランド」で「遊び名人」を目指す中で、ルールを守ることの必要性に気付いたり(生活科の目標の達成)、お金を計画的に使うことの大切さに気付いたり(金融経済教育の目標の達成)できた。また、普段の生活科の学習では味わえないお金のやり取りを体験することができたことで、大きな喜びと達成感も感じるすることができたようである。

今後の学習活動においても、普段の授業に「お金に関すること」を積極的に取り入れることで、児童のお金に関する知識と意識を高めていきたい。

② 総合的な学習の時間授業 学級の児童は、自分の経験したことは容易に考えることができるが、経験のないことは、なかなか自分ごととして考えること

ができない傾向にある。そこで、社会科の「水はどこから」「ごみのしやりと利用」の学習と総合的な学習の時間で扱う涸沼の環境問題を関連付け、環境保全について自分たちができることを継続して考えていけるようにした。

茨城町にある身近な涸沼の環境について学習する過程で、「涸沼水鳥湿地センター」見学、クリーン作戦、専門家の方の話を聞くなどの活動を行い、児童は、自分たちができることと自分たちだけでは解決できない問題があることに気付くことができた。さらに、環境保全のための公共事業や税金について学ぶ中で、自分たちが涸沼の未来を考え、環境保全のために活動することが、公共活動の助けになることや、限りある税金を有効に使うことにつながるのではないかと考え、意欲的に活動することができた。

この単位を通して、児童は、涸沼を守っているたくさんの方々への感謝の気持ちをもつと同時に自分たちが地域の一員として大切や役割があることに誇りをもつことができたのではないかと考える。今後、この活動を地域に発信する活動を行い、さらに地域との連携を深めていきたい。

③ 参観した先生方の振り返り、感想

- ・これから生きていく上で、金融経済について考えることは大切だと感じています。児童は今回の学習を通して、お金というものを今までより身近に感じてきたと思います。さらに意識を高め、変わりゆく社会の中でよりよく生きていって欲しいと感じています。また、児童が学習に向かう場作り、学級経営の大切さを改めて感じました。
- ・研究授業を通して、教科学習の中でいかに金融経済教育をからめていくか、ということが大切なのではないかと感じました。教科全般を通して教えていくことで、生活の中においても金融経済の重要性を根付かせていくことができるのではないかと思います。
- ・何をやっても、金融経済教育に結びつく部分はあるのかな、と感じました。「人」「もの」とのかかわりや感謝の思いなどは、これからも大切にしていきたいと思います。
- ・金融経済教育は、日常の授業の様々な場面で実践可能であることが分かりました。お金に関することだけでなく、心の教育などとも関連していることも知ることができました。
- ・小学生から「金融」に興味をもったり、買うものを決めて自分で買い物をしたりする経験はとても大事だと思いました。いろいろな教科で「金融」に触れて学習を進めだけでも、興味をもつ児童が増えるんだと感じました。